

ゴルフスタ

アグロ カネショウ株式会社

バージョン番号: 4.21

安全データシート - JIS Z 7253 : 2019 準拠

初期日付: 10/06/2022

改訂日: 05/11/2025

印刷日: 05/11/2025

S.GHS.JPN.JA

セクション1 化学品及び会社情報

製品に関する情報

製品名	ゴルフスタ
同義語	シアナジン水和剤
国連輸送名	トリアジン系殺虫殺菌剤類 (固体) (毒性のもの) (他に品名が明示されているものを除く。) (部分一致 シアナジン)
他の製品特定手段	データ無し

推奨用途及び使用上の制限

推奨用途及び使用上の制限	農業 (推奨用途以外の用途へ使用する場合は専門家の指示を仰ぐこと)
--------------	-----------------------------------

安全データシートの製造者または輸入業者の詳細

供給者の会社名称	アグロ カネショウ株式会社	AGRO-KANESHO CO., LTD.
住所	東京都千代田区丸の内一丁目8番3号 丸の内トラストタワー本館 25 階 100-0005 Japan	Marunouchi Trust Tower Main, 25th Floor, 1-8-3 Marunouchi, Chiyoda-ku Tokyo 100-0005 Japan
電話番号	03-5224-8000	+81-3-5224-8000
FAX番号	03-5224-8007	+81-3-5224-8007
ホームページ	https://www.agrokanesho.co.jp/	https://www.agrokanesho.co.jp/
e-メール	toiawase@agrokanesho.co.jp	toiawase@agrokanesho.co.jp

緊急連絡電話番号

緊急対応組織	アグロ カネショウ株式会社 所沢事業所	AGRO-KANESHO CO., LTD. Tokorozawa office
緊急電話番号	04-2003-7010	+81-4-2003-7010
その他の緊急電話番号	090-1128-3295	+81-90-1128-3295

セクション2 危険有害性の要約

化学物質又は混合物の分類

分類 [1]	急性毒性 (経口) 区分4, 皮膚感作性 区分1, 発がん性 区分2, 生殖毒性 区分2, 特定標的臓器毒性 (単回ばく露) 区分2, 特定標的臓器毒性 (反復ばく露) 区分2, 水生環境有害性 短期 (急性) 区分1, 水生環境有害性 長期 (慢性) 区分1
凡例:	1. Chemwatchによる分類; 2. 日本 NITE GHS 分類データベースによる分類

GHSラベル要素

絵表示:	
注意喚起語	警告

危険有害性情報

H302	飲み込むと有害
H317	アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
H351	発がんのおそれの疑い
H361	生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い
H371	臓器の障害のおそれ (胃腸系, 呼吸器系)
H373	長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ (血液, 腎臓, 肝臓)
H410	長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性

注意書き: 安全対策

P260	ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
P280	保護手袋, 保護衣を着用すること。

P270	この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
P264	取扱い後は製品が付着した体の部位をよく洗うこと。
P273	環境への放出を避けること。
P202	全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
P272	汚染された作業衣は作業場から出さないこと。

注意書き: 応急措置

P302+P352	皮膚に付着した場合：多量の水で洗うこと。
P308+P311	ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師に連絡すること。
P314	気分が悪いときは、医師の診察／手当てを受けること。
P333+P313	皮膚刺激又は発しん（疹）が生じた場合：医師の診察／手当てを受けること。
P362+P364	汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
P391	漏出物を回収すること。
P301+P312	飲み込んだ場合：気分が悪いときは医師に連絡すること。
P330	口をすすぐこと。

注意書き: 保管(貯蔵)

P405	施錠して保管すること。
------	-------------

注意書き: 廃棄

P501	内容物／容器は、自治体の規制に従い、認可を受けた有害廃棄物または特別廃棄物の処理施設に廃棄すること。
------	--

製品の危険性に関する追加情報はありません。

セクション3 組成および成分情報

物質

混合物の組成については、以下のセクションを参照してください

混合物

CAS番号	%[重量]	名称	官報公示整理番号		ナノフォーム粒子特性
			化審法	安衛法	
21725-46-2	42	シアナジン	-	8-(3)-498	データ無し
57-55-6	7	プロパン-1, 2-ジオール	2-234	2-(8)-321 (2-(8)-323)	データ無し
凡例:		[e] 内分泌かく乱作用をもつと認められている物質			

セクション4 応急措置

必要な応急措置の説明

眼に入った場合	眼に入った場合： ▶ 直ちにきれいな流水で洗浄すること。 ▶ 洗眼は、眼球、瞼の隅々まで水がよく行き渡るように行うこと。 ▶ 速やかに医師の手当てを受けること。痛みが続いたり繰り返す場合は、医師の手当てを受けること。 ▶ 眼に損傷がある場合、コンタクトレンズの取り外しは、専門家に任せること。
皮膚に付着した場合	皮膚に付着した場合： ▶ 直ちに汚染された衣類すべて(履物を含む)を脱がせること。 ▶ 流水で皮膚および毛髪を洗浄すること。必要に応じて石鹸を使用すること。 ▶ 炎症がある場合には、医師の手当てを受けること。
吸入した場合	▶ フェーム、エアゾールまたは燃焼生成物を吸入した場合、汚染区域から退去させること。 ▶ 通常、他の措置を講じる必要はない。
飲み込んだ場合	▶ 直ちにコップ1杯の水を飲ませること。 ▶ 応急措置は通常必要とは考えられていない。懸念がある場合には、医師に相談すること。

医師に対する特別な注意事項

対症療法を行うこと。
高級脂肪酸アルコール（最大C7）による中毒の治療:
▶ 大量の水で胃を洗浄すること。
▶ 胃への60ml鉱油の点滴注入が有効な場合がある。
▶ 必要に応じて酸素補給および人工呼吸を施すこと。
▶ 電解質平衡: 始めに500mlの1/6mol重炭酸ナトリウムを静脈注射すると有効な場合があるが、ショックまたは重度のアシドーシスが見られる場合を除き、電解質の補充は安易に行わないこと。
▶ 肝臓を保護するために、ブドウ糖を静脈注射し、炭水化物欠乏を避けること。
▶ 昏睡状態が長く続く場合、血液透析を行うこと。 [GOSSELIN, SMITH HODGE: Clinical Toxicology of Commercial Products, Ed 5)]

基本的治療

- ▶ 必要であれば吸引し、気道を確保すること。
- ▶ 呼吸不全の兆候に注意し、必要であれば換気の補助をすること。
- ▶ 非再呼吸マスクで毎分10～15リットルの酸素を与えること。
- ▶ ショック症状を観察し、必要であれば治療を施すこと。
- ▶ 肺水腫の有無を観察し、必要であれば治療を施すこと。
- ▶ 発作に注意し、必要であれば治療を施すこと。
- ▶ 吐剤を使用しないこと。飲み込んだ可能性がある場合には口内をすすぎ、飲み込むことができ、咽頭反射が強く、垂涎のない患者に対しては、200ml以下の水（5ml/kgが推奨される）を与え希釈すること。
- ▶ 活性炭を与えること。

高度な治療

- ▶ 意識のない患者の気道確保に際して、または呼吸が停止した場合、経口または経鼻気管内挿管を検討すること。
- ▶ バックバルブマスクを使用した陽圧換気が有用なことがある。
- ▶ 不整脈を観察し、必要であれば治療を施すこと。
- ▶ 静脈内へD5W（デキストロース5%）開放点滴を開始する。循環血液量減少の徴候がある場合、乳酸リンゲル液を使用すること。水分過負荷により合併症を引き起こすことがある。
- ▶ 患者が低血糖（意識不明または意識障害、頻脈、蒼白、散瞳、発汗、グルコカードまたは血糖値測定器の値が50mg未満）を引き起こした場合は、50%デキストロースを投与すること。
- ▶ 循環血液量減少の徴候を伴う低血圧は、輸液投与に十分な管理を必要とする。水分過負荷により合併症を引き起こすことがある。
- ▶ 肺水腫を考慮し薬物療法を検討すること。
- ▶ 発作はジアゼパムで治療すること。
- ▶ 眼を洗浄する際は、洗浄助剤である塩酸プロバラカインを使用すること。

救急診療

- ▶ 治療方針を打ち出す際、全血算、血清電解質、BUN、クレアチニン、ぶどう糖、尿検査、血清アミノトランスフェラーゼ（ALTとAST）のベースライン、カルシウム、リンおよびマグネシウムの値が手助けとなることがある。その他、アニオンギャップと浸透圧ギャップ、動脈血液ガス（ABG）、胸部X線写真および心電計も有益な手がかりとなることがある。
 - ▶ 急性実質性損傷または成人型呼吸困難症候群の場合は、終末呼吸陽圧（PEEP）による補助呼吸が必要となることがある。
 - ▶ アシドーシスには過換気療法および重炭酸塩療法が有効な場合がある。
 - ▶ 重症の中毒の場合、血液透析を検討すること。
 - ▶ 必要な場合、毒物治療の専門医に相談すること。 [BRONSTEIN, A.C. and CURRANCE, P.L. EMERGENCY CARE FOR HAZARDOUS MATERIALS EXPOSURE: 2nd Ed. 1994]
- 炭素数8以上のアルコールの場合：
対症療法および支持療法が推奨される。

セクション5 火災時の措置

消火剤

- ▶ 耐アルコール泡沫
- ▶ 乾燥化学粉末
- ▶ BCF（規制されていない場合）
- ▶ 二酸化炭素
- ▶ 水スプレーまたは霧 - 大規模火災時のみ

特有の危険有害性

火災の際に避けるべき条件	発火する危険性があるため、硝酸塩、酸化性酸、塩素系漂白剤、プール用塩素などの酸化剤による汚染を避けること。
--------------	---

消火活動に関する情報

特有の消火方法	<ul style="list-style-type: none">▶ 消防に通報し、事故の場所と危険有害性に関する情報を伝えること。▶ 火災時にのみ、呼吸装置を備えた保護衣および保護手袋を着用すること。▶ あらゆる手段を用いて、排水路または水路への漏出物の流入を防ぐこと。▶ 周囲の環境に応じて適切な消火剤を使用すること。▶ 高温であると疑われる容器に接近してはならない。
火災及び爆発の危険性	二酸化炭素 (CO2) 塩化水素 ホスゲン 窒素酸化物(NOx) 有機物の燃焼特有の、その他の熱分解生成物

セクション6 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

セクション 8 参照

環境に対する注意事項

セクション 12 参照

封じ込め及び浄化の方法及び機材

小規模漏出の場合	<ul style="list-style-type: none">▶ 直ちに全ての漏出物を除去すること。▶ 蒸気の吸入、皮膚および目との接触を避けること。▶ 保護具を着用し、人体への接触を抑制すること。▶ 砂、土、不活性物質またはバーミキュライトを用いて漏出物を吸収し、流出を防ぐこと。▶ 拭き取ること。
大規模漏出の場合	<ul style="list-style-type: none">▶ 現場から人員を退去させ、風上へ移動させること。▶ 消防に通報し、事故の場所と危険有害性に関する情報を伝えること。▶ 呼吸装置および保護手袋を着用すること。▶ あらゆる手段を用いて、排水路または水路への漏出物の流入を防ぐこと。▶ 安全に対処できる場合、漏えいを阻止すること。

個人用保護具に関する情報については、SDSのセクション8をご参照ください。

セクション7 取扱い及び保管上の注意

安全な取扱のための予防措置

安全取扱注意事項	<ul style="list-style-type: none">▶ 吸入を含む、人体へのあらゆるばく露を避けること。▶ ばく露の可能性がある場合は、保護衣を着用すること。▶ 換気の良い場所で使用すること。▶ 水分との接触を避けること。▶ 混触危険物質との接触を避けること。▶ 製品で濡れた衣服を皮膚に接触したままの状態にしないこと。
----------	---

ゴルフスタ

他の情報	<ul style="list-style-type: none">▶ 元の容器のまま保管すること。▶ 容器を完全に密封して保管すること。▶ 換気の良い冷乾所に保管すること。▶ 混触危険物質および食品容器から隔離して保管すること。▶ 容器の損傷を避け、漏れを定期的に確認すること。
------	--

混触危険性を含む、安全な保管条件

適切な保管条件	<ul style="list-style-type: none">▶ ポリエチレン製またはポリプロピレン製容器▶ 製造者が推奨する容器を使用すること。▶ すべての容器に明確なラベルが貼り付けられていることおよび漏れがないことを確認すること。
避けるべき保管条件	<ul style="list-style-type: none">▶ グリコールとそのエーテルは、70%の過塩素酸と接触すると激しく分解する。これは、爆発性のグリコール過塩素酸エステル（エーテルの切断後）の形成を伴う可能性があり、エチレングリコールと3-クロロ-1,2-プロパンジオールの反応はグリセリン硝酸エステルよりも強力であり、前者は非常に反応性が高く、水の添加により爆発する。▶ ニトリルは、金属およびいくつかの金属化合物の存在下で重合するかもしれない。▶ それらは酸と不適合である; ニトリルを強い酸化性の酸と混合することは、非常に激しい反応に結びつく場合がある。▶ ニトリルは、過酸化化物およびエポキシドのような他の酸化剤と一般に不適合である。塩基とニトリルの組合せは、シアン化水素を生じることができる。▶ ニトリルは、水性の酸および塩基の両方中で発熱的に加水分解し、カルボン酸(またはカルボン酸の塩)を与える。▶ ニトリルは、還元剤と活発に反応できる。 <p>共有結合のシアノ基は吸熱性である。また、多くの有機ニトリルはある条件下で反応的である; N-シアノ誘導体は反応的かまたは不安定である。大多数の吸熱化合物は熱力学的に不安定で、開始の様々な状況の下で爆発的に分解するかもしれない。すべてではなく多くの吸熱化合物が分解、反応および爆発に関係しており、一般に標準生成熱の著しい正值を持つ化合物は、安定性グラウンド上で容疑者と考えられるかもしれない。</p> <p>BRETHERRICK L.: Handbook of Reactive Chemical Hazards</p> <p>アルコール</p> <ul style="list-style-type: none">▶ 強酸、酸塩化物、酸無水物、酸化剤、還元剤との混触危険性を有する▶ アルカリ金属およびアルカリ土類金属と、場合により激しく、反応し、水素を生成する▶ 強酸、強塩基、脂肪族アミン、イソシアネート、アセトアルデヒド、過酸化ベンゾイル、クロム酸、酸化クロム、ジアルキル亜鉛、一酸化二塩素、エチレンオキシド、次亜塩素酸、クロロ炭酸イソプロピル、水素化アルミニウムリチウム、二酸化窒素、ペンタフルオログアニジン、ハロゲン化リン、五硫化リン、タンジェリンオイル、トリエチルアルミニウム、トリイソブチルアルミニウムと反応する▶ アルミニウム製器具との接触がある場合、49°C以上に加熱してはならない

セクション8 ばく露防止及び保護措置

管理パラメーター

- 許容濃度(OEL)
- 成分に関する情報
- データ無し

成分	オリジナルIDLH	改訂IDLH
シアナジン	データ無し	データ無し
プロパン-1, 2-ジオール	データ無し	データ無し

ばく露管理

設備対策	<p>工学的管理（設備対策）は、危険有害性を排除するため、または作業員を危険有害性から防御するために使用される手法である。適切に設計された工学的管理（設備対策）により、通常、作業者が関与することなく、作業者を効果的に保護することができる。</p> <p>工学的管理（設備対策）の基本:</p> <p>工程管理 - 作業または作業工程に変更を加え危険性を低減する。</p> <p>放出源の密閉および／または隔離 - 作業員を物理的危険有害性から隔離する。換気 - 効果的に作業環境の空気を入れ替える。適切に設定されている場合、換気により空気中の汚染物質を排除または希釈することができる。換気システムは、特定の工程および使用する化学物質または汚染物質に合わせて設計する必要がある。</p> <p>雇用主は、作業員の過剰ばく露を避けるために複数の制御手法を用いる必要がある。</p> <p>通常の作業条件下では、全体排気で十分である。過剰ばく露のリスクがある場合には、JIS認可の呼吸器用保護具を着用すること。安全性を確保するために、保護具は正しく装着することが重要である。倉庫あるいは閉鎖的な保管場所では、十分な換気を行うこと。汚染物質を効果的に除去するために必要となる新鮮な循環空気の「制御風速」は、作業場で発生する汚染物質を含む空気の「脱出」速度により異なる。</p>
保護具	
眼/顔面の保護	<ul style="list-style-type: none">▶ サイドシールド付きの保護眼鏡。▶ ケミカルゴーグル。[AS/NZS 1337.1, EN166 または国内同等規格]▶ コンタクトレンズの使用は、特殊な危険有害性を引き起こすことがある; ソフトコンタクトレンズは、刺激物を吸収・濃縮することがある。レンズの装用および使用制限を明記した方針文書を作業の種類または場所ごとに作成しておくこと。当該文書には、レンズによる使用化学物質群の吸収および吸着に関する評価結果、および障害例の記録等を掲載すること。医療関係者や救急隊員はレンズの取り外しについての訓練を受け、同時に適切な器具を速やかに使用できるよう準備しておくべきである。化学物質へのばく露時には、直ちに洗眼し、速やかにレンズを取り外すこと。眼の発赤または刺激の初期兆候が見られる場合には、レンズを取り外すこと - レンズの取り外しは、清潔な環境において、手をよく洗ってから行なうべきである。[CDC NIOSH Current Intelligence Bulletin 59].
皮膚の保護	以下の手の保護具を参照してください。
手/足の保護	<ul style="list-style-type: none">▶ ポリ塩化ビニル製などの化学用保護手袋を着用すること。▶ ゴム製などの安全靴または安全長靴を着用すること。 <p>注記:</p> <ul style="list-style-type: none">▶ 人によっては何らかの皮膚刺激を生じることがある。手袋および他の保護具を脱ぐ際には、あらゆる皮膚接触を避けるよう細心の注意を払うこと。▶ 靴・ベルト・時計バンドなどの革製品に汚染物が付着した際は、脱ぎ捨て（または取り外し）廃棄すること。 <p>適切な手袋の選択は、材質だけでなく、製造業者間で異なる品質保証にも注意する必要がある。化学製品が複数の化学物質の調剤である場合、手袋材質の耐久性は事前に計算することができず、したがって、使用前に確認しておくことが重要である。</p> <p>物質に対する正確な破過時間は、保護手袋製造業者から得ることができ、最終的な選択の際に重視するものである。</p> <p>個人衛生は効果的な手の保護の重要な要素である。手袋は清潔な手に着用する必要がある。手袋使用後は、手を洗浄し、完全に乾燥させる必要がある。無香料の保湿剤を使用することが望ましい。</p> <p>手袋種類の適合性と耐久性は使用用途による。手袋の選定における重要な要因は次のとおりである:</p> <ul style="list-style-type: none">・ 接触頻度および時間、・ 手袋材料の耐化学品性、

	<div><div>・ 手袋の厚さ、</div><div>・ 作業性</div></div> <div>関連する規格に適合した手袋を使用すること（欧州EN374、US F739、AS/NZS 2161.1または国内同等規格等）。</div> <div>・ 長期使用または高頻度の繰り返し接触が発生することがある場合、保護クラス5以上の手袋の使用が望ましい（EN374、AS/NZS 2161.1または国内同等規格による計測で、破過時間240分を超えるもの）。</div>
身体の保護	以下の他の保護具を参照してください。
他の保護	<div><div>▶ 防護用密閉服(つなぎ型)</div><div>▶ 塩化ビニル製エプロン</div><div>▶ 保護クリーム</div><div>▶ 皮膚洗浄クリーム</div><div>▶ 洗眼用設備</div></div>

推奨される材料

グローブセクションインデックス

手袋の選択は、「Forsberg 衣類性能指数（Clothing Performance Index）」の改訂版に基づく。
コンピュータによる選択に際して作用が考慮されている物質：

ゴルフスタ

物質	CPI
BUTYL	C
NAT+NEOPR+NITRILE	C
NATURAL RUBBER	C
NATURAL+NEOPRENE	C
NEOPRENE	C
NITRILE	C
NITRILE+PVC	C
PE/EVAL/PE	C
PVA	C
PVC	C
VITON	C

* CPI - Chemwatch Performance Index（性能指数）
A：最良
B：満足（4時間連続して浸漬すると、劣化することがある）
C：不良または危険（短期的な浸漬の場合を除く）
注意：様々な要因が手袋の性能に影響を与えるため、詳細にわたる観察に基づき最終的決定を下す必要がある。
＊手袋を短期間またはごくまれに使用する場合、「感触」や使い勝手（例：廃棄性）等の要素が手袋の選択に影響を与え、長期のあるいは頻繁な利用に適さない手袋が選択されることがある。資格のある専門家に相談すること。

呼吸用保護具

A-P タイプフィルタ（十分な容量を有するもの）

呼吸器具の等級および種類の選択は、呼吸ゾーンの汚染物質レベルや、汚染物質の化学的性質に依存する。保護係数（保護マスクの外側と内側の汚染物質の比率から算出される）が重要となる場合もある。

呼吸ゾーンレベル ppm（量）	最大保護係数	ハーフフェイス呼吸器	フルフェイス呼吸器
1000	10	A-AUS P2	-
1000	50	-	A-AUS P2
5000	50	エアライン*	-
5000	100	-	A-2 P2
10000	100	-	A-3 P2
	100+	-	エアライン**

* 連続流型
** 連続流型またはプレッシャーデマンド型（陽圧）

緊急事態時に現場に進入する場合、または酸素濃度や蒸気濃度が不明なエリアでは、カートリッジ式呼吸器用保護具を使用しないこと。カートリッジ式呼吸器用保護具を着用しているにも関わらず、なんらかの臭いを察知した場合は、直ちにその汚染区域から退去すること。臭いを察知した場合、その呼吸器用保護具が適切に機能していない、蒸気濃度が非常に高い、または、保護具が着用者に合っていないことが考えられる。このようにカートリッジ式呼吸用保護具の使用には制限があるため、適切な状況においてのみ使用が認められている。

セクション9 物理的及び化学的性質

物理的および化学的性質に関する基本情報

外観	淡褐色		
物理状態	液体	相対密度（水 = 1）	1.12-1.17
臭い	データ無し	n-オクタノール/水分配係数	データ無し
嗅覚閾値	データ無し	自然発火点（°C）	データ無し
pH	データ無し	分解温度（°C）	データ無し
融点/凝固点（°C）	データ無し	動粘性率（cSt）	データ無し
沸点/初留点/沸点範囲（°C）	データ無し	モル質量（g/mol）	データ無し
引火点（°C）	データ無し	味	データ無し
蒸発速度	データ無し	爆発性	データ無し
可燃性	該当しない	酸化特性	データ無し
爆発上限界（%）	データ無し	表面張力（dyn/cm or mN/m）	データ無し
爆発下限界（%）	データ無し	揮発性成分（%vol）	データ無し
蒸気圧（kPa）	データ無し	ガスグループ	データ無し
溶解度	該当しない	pH（溶液）（1%）	データ無し
相対ガス密度（空気 = 1）	データ無し	揮発性有機化合物 g/L	データ無し
ナノフォーム溶解度	データ無し	ナノフォーム粒子特性	データ無し
粒子サイズ	データ無し		

セクション10 安定性及び反応性

反応性	セクション 7 参照
化学的安定性	<div><div>▶ 混触危険性物質が存在する。</div><div>▶ 製品は安定していると考えられる。</div><div>▶ 危険な重合反応は起こらないと考えられる。</div></div>

ゴルフスタ

危険有害反応可能性	セクション 7 参照
避けるべき条件	セクション 7 参照
混触危険物質	セクション 7 参照
危険有害な分解生成物	セクション 5 参照

セクション11 有害性情報

毒物学的影響に関する情報	
a) 急性毒性	この物質を急性毒性物質として分類するのに十分な証拠があります。
b) 皮膚腐食性／刺激性	利用可能なデータに基づいて、分類基準は満たされていません。
c) 眼に対する重篤な損傷性 ／眼刺激性	利用可能なデータに基づいて、分類基準は満たされていません。
d) 呼吸器感受性又は皮膚感 作性	この材料を皮膚または呼吸器系に対して感作作用を持つものとして分類するのに十分な証拠があります
e) 生殖細胞変異原性	利用可能なデータに基づいて、分類基準は満たされていません。
f) 発がん性	この材料を発がん性物質として分類するのに十分な証拠があります
g) 生殖毒性	この材料を生殖毒性があると分類するのに十分な証拠があります
h) 特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	この材料を単回曝露で特定の臓器に有毒と分類するのに十分な証拠があります
i) 特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	この材料を繰り返し曝露で特定の臓器に有毒と分類するのに十分な証拠があります
j) 誤えん有害性	利用可能なデータに基づいて、分類基準は満たされていません。

吸入した場合	本物質は、吸入により、(動物モデルを用いたEC指令の分類に基づく) 有害な健康影響を及ぼす物質または気道刺激性物質とは考えられていない。それでもなお、動物への少なくとも1つの他経路からのばく露により、全身性健康悪影響が確認されており、作業環境においては、適正衛生規範 (GHP) に従いばく露を最小限に抑え、適切な管理策を講じるべきである。炭素数3以上の脂肪族アルコールは、頭痛、めまい、眠気、筋力低下、精神かく乱、中枢神経系抑制、昏睡、発作、および行動の変化を引き起こすことがある。続発性の呼吸抑制、呼吸不全、低血圧、不整脈が起こることがある。通常の取扱い過程において製品から発生した粉じんを吸入すると、健康障害を引き起こすことがある。
飲み込んだ場合	非環式アルコールへの過剰ばく露は、神経系症状を引き起こす。これらの症状には、頭痛、筋力低下と協調運動失調、めまい、精神錯乱、せん妄、昏睡が含まれる。EC指令または他の分類基準により、「飲み込むと有害」に分類されていない。これは、裏付けとなる動物またはヒトにおける証拠が不足しているためである。偶発的事故により経口摂取した場合、有毒な作用を引き起こすことがある。動物実験によると、40g未満の摂食は致命傷または身体に深刻な悪影響を及ぼす可能性があることが確認されている。
皮膚に付着した場合	本物質は、一部の人のに対して皮膚の炎症を引き起こす可能性があることが認められている。開放創、擦り傷または炎症がある場合は、皮膚への接触を避けること。切創、擦り傷または病変部などを通じて血流に侵入すると、悪影響を及ぼす全身性疾患を引き起こすことがある。使用前に皮膚を検査し、あらゆる外傷を適切に保護しておくこと。液体アルコールの多くは、ヒトの皮膚に対し刺激性物質として作用する傾向がある。ウサギでは明らかな経皮吸収が起こるが、ヒトではそれほど顕著に起こらない。皮膚に接触すると有害のおそれ：体内に吸収されると全身性疾患を引き起こすことがある。
眼に入った場合	この液体は、(EC指令の分類に基づく) 刺激性物質としては考えられていないが、眼に入った場合、流涙または結膜発赤 (風焼けの症状と同様) を特徴とする一過性の不快感を生じることがある。
慢性毒性	がんまたは突然変異を生じる懸念があるが、評価材料となるデータが不足している。人によっては、皮膚に付着することにより、感受性反応を生じる可能性が高くなると考えられる。有毒：吸入、皮膚接触および飲み込むことによる長期暴露により、重度の健康障害を生じる危険がある。長期ばく露により重度の健康被害を引き起こすことがある。重度の障害を引き起こす物質が含まれていると考えられており、その有害性は短期および長期実験によって実証されている。この物質が直接的に出生率を低下させる疑いがあるという実験からの十分な証拠が存在する。シアン化物および一部のニトリルへの慢性ばく露は、甲状腺によるヨウ素摂取を妨害し、それによるその他の障害を引き起こすことがある。原因は、シアン化物の代謝物チオシアン酸塩である。また、チオシアン酸塩の生成により甲状腺機能不全が生じることがある。報告によると、少量のシアン化物化合物への長期ばく露は、食欲不振、頭痛、衰弱、吐き気、めまい、腹痛、味覚・臭覚変化、筋痙攣、減量、顔の潮紅、持続性の鼻汁、上気道・眼刺激を引き起こす。これらの症状はシアン化物ばく露特有のものではないため、シアン化物の慢性毒性の存在の有無は不確かである。シアン化物への軽度の反復ばく露は、痒み、丘疹 (皮膚の表面に小さく盛り上がった斑点) を引き起こし、場合によっては感作を生じることがある。低濃度への長期暴露は、眼神経を損傷する危険性があると懸念されている。

ゴルフスタ	毒性	刺激性/感受性
	経口 (ラット) LD50: >300 mg/kg ^[2]	皮膚刺激性なし (ウサギ)
	経皮 (ラット) LD50: >2000 mg/kg ^[2]	眼刺激性なし (ウサギ)
		皮膚感受性あり (モルモット)

凡例	1. 欧州ECHA登録物質 - 急性毒性 - から得られた値。 2. *の値は製造者のSDSから得られた値。 特に注記のないデータはRTECSから抽出した値。
----	---

ゴルフスタ	以下の情報は、グループとしての接触アレルゲンに関するものであり、この製品に固有のものではない場合がある。 アレルギー性物質に接触することで、接触湿疹(まれに、じんましん、またはクイंक浮腫)が即座に発症する。接触湿疹の発症は、遅延型の細胞媒介 (Tリンパ球) 免疫反応を伴う。接触じんましんなどの他のアレルギー性皮膚反応は、抗体媒介免疫反応を伴う。接触性アレルゲンの深刻さは、物質が潜在的に有する感受性によって特定されるだけでなく、接触した部位および接触頻度なども重要な要因となる。広く使用されている弱感受性物質は、少数にのみばく露する強感受性物質よりも、重大なアレルギー性物質であると考えられている。臨床的に判断し、被験者の1%以上にアレルギー性反応が診られた場合、その物質は要注意物質とみなされる。
-------	--

急性毒性	✓	発がん性	✓
皮膚腐食性／刺激性	✗	生殖毒性	✓

眼に対する重篤な損傷性 ／眼刺激性	✖	特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	✔
呼吸器感受性又は皮膚感受性	✔	特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	✔
生殖細胞変異原性	✖	誤えん有害性	✖

凡例: ✖ - データ利用不可または、区分に該当しない
✔ - 分類済み

内分泌かく乱作用
内分泌かく乱作用を示す証拠は、最新の文献では見つからない。

セクション12 環境影響情報

生態毒性

ゴルフスタ	エンドポイント	試験期間 (時間)	種	値	出典
	データ無し	データ無し	データ無し	データ無し	データ無し
シアナジン	エンドポイント	試験期間 (時間)	種	値	出典
	LC50	96	魚類 Cyprinus carpio (コイ)	35mg/L	8
	EC50	48	甲殻類 Daphnia magna (オオミジンコ)	32mg/L	8
	ErC50	72	藻類/植物 Pseudokirchneriella subcapitata (藻類)	0.0296mg/L	8
凡例:	1. IUCLID毒性データ 2. 欧州ECHA登録物質 - 生態毒性情報 - 水生毒性 4. 米国環境保護庁, Ecotoxデータベース - 水生毒性データ 5. ECETOC水生環境有害性評価データ 6. NITE (日本) - 生物濃縮性データ 7. METI (日本) - 生物濃縮性データ 8. ベンダーデータ から抽出				

水性生物に対して非常に有毒であり、水生環境中で長期にわたり悪影響を及ぼすことがある。
表層水や平均高水位線以下の潮間帯域への流入を阻止すること。設備の洗浄もしくは設備の洗浄水の処理に際して、水域を汚染しないこと。

製品の使用により生じた廃棄物は、現場もしくは許可を受けた廃棄物処理場において処理すること。
トリアジン殺虫剤は、低いpHでより可溶のトリアジンと共に、pKa pHレベルを備えた水溶液中で弱塩基として作用する。有機物と粘土鉱物への交換過程によるトリアジンの吸着は、溶液のpHおよび吸収剤の表面の酸性度に依存する。水素結合と疎水結合が、さらにより高いpHで土壌有機物に生じる。光分解が最小に見えている一方、加水分解と酸化は土壌代謝の一般的な経路である。イオン化された化合物がそれほど揮発性でないように、蒸気輸送ロス、蒸気圧および蒸発表面のpHに依存する。土壌から水までの輸送が溶液および底質で起こる。5ppbを越えた除草剤濃度は、沈水水生植生(SAV)の減退に役割を果たすかもしれない。しかしながら、これらの除草剤が河口の条件の下で急速に分解するとともに、これらの濃度への暴露からの回復が起こる。残留物は、底質に蓄積するように見えない。
下水道または水路に排出しないこと。

残留性・分解性

成分	残留性: 水域/土壌	残留性: 大気
シアナジン	高	高
プロパン-1, 2-ジオール	低	低

生体蓄積性

成分	生物濃縮性
シアナジン	低 (LogKOW = 2.105)
プロパン-1, 2-ジオール	低 (BCF = 1)

土壌中の移動性

成分	移動性
シアナジン	低 (Log KOC = 699.6)
プロパン-1, 2-ジオール	高 (Log KOC = 1)

内分泌かく乱作用
内分泌かく乱作用を示す証拠は、最新の文献では見つからない。

その他の有害影響
オゾン層破壊作用を示す証拠は、最新の文献では見つからない。

セクション13 廃棄上の注意


廃棄方法

製品／容器／包装の廃棄方法	<p>▶ 容器は空であっても化学的な危険有害性を有していることがある。</p> <p>▶ 可能な場合、適切な再利用／リサイクルのため、製造者に返送すること。</p> <p>返送が不可能な場合:</p> <p>▶ 残留物がなくなるまで十分に洗浄できない場合や、同一製品の保管に再利用できない場合には、再利用を防ぐために容器に穴を開け、認可を受けた埋立処分場に廃棄すること。</p> <p>▶ 可能であれば警告ラベルおよびSDSを保管し、製品に関する注意事項を厳守すること。</p> <p>廃棄物の処理要件を定める法規制は、国や地域により異なる。現地で施行されている法規制を確認すること。地域によっては、特定廃棄物の追跡管理が必要となる。</p> <p>段階的な管理が一般的である（取扱者による調査が必要）:</p> <p>▶ リデュース - 廃棄物の発生抑制</p> <p>▶ リユース - 再利用</p> <p>▶ リサイクル - 再生資源の利用</p> <p>▶ 廃棄（最終手段）</p>
---------------	---

	<p>本製品は、未使用の場合や汚染されていないが意図する用途に適さない場合には、リサイクルしてもよい。汚染されている場合には、ろ過、蒸留またはその他の方法による再生が可能な場合もある。このような判断をする場合、保管寿命も考慮すべきである。取扱い中に物質の性質が変わる可能性があり、その場合には再生利用や再使用が適切とはなり得ない点に注意すること。</p> <ul style="list-style-type: none">▶ 器具の洗浄に用いた洗浄水は排水路に流入させないこと。▶ 器具の洗浄に用いた洗浄水は、排出する前にすべて回収し適切な処理を施す必要がある。▶ 下水道への排出は国内法規制の対象となることがあるため、常に、その国内法規制の要件を考慮しなければならない。▶ 不明な点は、担当当局に問い合わせること。▶ 製造者にリサイクルの可否を問い合わせ、可能な場合はリサイクルすること。▶ 廃棄する場合は廃棄物の処理を管理している都道府県・市町村に問い合わせること。▶ 残留物は、認可を受けた処分場で焼却または埋立処分すること。▶ 容器は、可能であれば再生利用、もしくは認可を受けた埋立処分場に廃棄すること。
--	--

セクション14 輸送上の注意

要求されるラベル

	
海洋汚染物質	

陸上輸送 (UN)

14.1. 国連番号	2763	
14.2. 国連輸送名	トリアジン系殺虫殺菌剤類（固体）（毒性のもの）（他に品名が明示されているものを除く。）（部分一致 シアナジン）	
14.3. 輸送時の危険性クラス	クラス	6.1
	副次危険性	該当しない
14.4. 容器等級	III	
14.5. 環境有害性	環境に有害	
14.6. 使用者のための特別予防措置	特別規定	61; 223; 274
	制限容量	5 kg

航空輸送 (ICAO-IATA / DGR)

14.1. 国連番号	2763	
14.2. 国連輸送名	トリアジン系殺虫殺菌剤類（固体）（毒性のもの）（他に品名が明示されているものを除く。）（部分一致 シアナジン）	
14.3. 輸送時の危険性クラス	ICAO/IATAクラス	6.1
	ICAO / IATA 副次危険性	該当しない
	ERGコード	6L
14.4. 容器等級	III	
14.5. 環境有害性	環境に有害	
14.6. 使用者のための特別予防措置	特別規定	A3 A5
	梱包指示（貨物のみ）	677
	最大数量/バック（貨物のみ）	200 kg
	旅客および貨物包装方法	670
	旅客と貨物の最大個数/バック	100 kg
	旅客・貨物輸送機 制限容量 包装方法	Y645
	旅客・貨物輸送機 最大制限容量 / 包装方法	10 kg

海上輸送 (IMDG-Code / GGVSee)

14.1. 国連番号	2763	
14.2. 国連輸送名	トリアジン系殺虫殺菌剤類（固体）（毒性のもの）（他に品名が明示されているものを除く。）（部分一致 シアナジン）	
14.3. 輸送時の危険性クラス	IMDGクラス	6.1
	IMDG 副次危険性	該当しない
14.4. 容器等級	III	
14.5. 環境有害性	海洋汚染物質	
14.6. 使用者のための特別予防措置	EMS番号	F-A, S-A
	特別規定	61 223 274
	制限容量	5 kg

14.7. IMO規則による海上ばら積み輸送

14.7.1. MARPOL 附属書 II 及び IBC コードによるばら積み輸送

該当しない

セクション15 適用法令

物質又は混合物に特有な安全、健康および環境に関する規制

シアナジン に関する適用法令
ケミカル フットプリント プロジェクト - 高懸念化学物質リスト
労働安全衛生法（ISHA） - 既存／新規公表化学物質（日本語）
日本 労働安全衛生法－名称等を表示すべき有害物質（2026年4月施行）
日本 労働安全衛生法：名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物
日本 化学物質排出把握管理促進法（令和5年度分以降の排出量等の把握や令和5年度以降のSDS提供の対象）
日本 政府によるGHS分類
プロパン－1， 2－ジオール に関する適用法令
労働安全衛生法（ISHA） - 既存／新規公表化学物質（日本語）
日本 労働安全衛生法：名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物
日本 労働安全衛生法：名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物（2025年4月施行）
日本 化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律：優先評価化学物質
日本 化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律：既存化学物質/新規公示化学物質
日本 政府によるGHS分類

追加規制情報

該当しない

労働安全衛生法	名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物 通知対象物質		
	政令名称		政令番号
	2－（4－クロロ－6－エチルアミノ－1， 3， 5－トリアジン－2－イル）アミノ－2－メチルプロピオニトリル（別名シアナジン）		規則別表第2の462 (令和8年4月1日施行)
	プロピレングリコール		規則別表第2の1786
	表示対象物質		
	政令名称		政令番号
	2－（4－クロロ－6－エチルアミノ－1， 3， 5－トリアジン－2－イル）アミノ－2－メチルプロピオニトリル（別名シアナジン）		規則別表第2の462 (令和8年4月1日施行)
	プロピレングリコール		規則別表第2の1786
	製造の許可を受けるべき有害物		
	政令名称		政令番号
該当しない		該当しない	
PRTR - 化管法	関連する法令・条例		
	危険物 - 酸化性の物		該当しない
	危険物 - 引火性の物		該当しない
	有機溶剤		該当しない
	特定化学物質		該当しない
	皮膚刺激性有害物質		ゴルフスタ
	化管法 (令和5年度分以降の排出量等の把握や令和5年度以降のSDS提供の対象)		
	分類	政令名称	管理番号
	第1種指定化学物質	2－（4－クロロ－6－エチルアミノ－1， 3， 5－トリアジン－2－イル）アミノ－2－メチルプロピオニトリル（別名シアナジン）	91
	毒物及び劇物取締法	該当しない	
化審法	優先評価化学物質		プロパン－1， 2－ジオール
	第1種特定化学物質		該当しない
	第2種特定化学物質		該当しない
	監視化学物質		該当しない
	一般化学物質		該当しない
消防法			

国別インベントリ状況

国別インベントリ	状況
オーストラリア - AIIC / オーストラリア非工業用	Yes
カナダ - DSL	Yes
カナダ - NDSL	No (シアナジン; プロパン-1, 2-ジオール)
中国 - IECSC	Yes
欧州 - EINEC / ELINCS / NLP	Yes
日本 - ENCS	No (シアナジン)
韓国 - KECI	No (シアナジン)
ニュージーランド - NZIoC	Yes
フィリピン - PICCS	No (シアナジン)
米国 - TSCA	TSCAインベントリ「アクティブ」 (プロパン-1, 2-ジオール); No (シアナジン)
台湾 - TCSI	Yes
メキシコ - INSQ	No (シアナジン)
ベトナム - NCI	Yes
ロシア - FBEPH	No (シアナジン)
アラブ首長国連邦 - 規制リスト (禁止/制限物質)	No (プロパン-1, 2-ジオール)
凡例:	Yes = 全ての成分がインベントリに収載されている No = 記載されている成分はインベントリに収載されていない。これらの成分は対象外であるか、登録・届出が必要である

セクション16 その他の情報

改訂日	05/11/2025
最初の発行日	10/06/2022

連絡先

公益財団法人 日本中毒情報センター（事故に伴い急性中毒の恐れがある場合に限る）
中毒110番 365日24時間対応
一般市民専用電話（情報料無料）（大阪）072-727-2499（つくば）029-852-9999
医療機関専用有料電話（1件2000円）（大阪）072-726-9923（つくば）029-851-9999
医療機関の方が一般市民専用電話を使用した場合も、情報料1件につき2000円を徴収します。

SDSバージョンの概要

バージョン	改訂日	更新されたセクション
3.21	10/09/2025	有害性情報 - 急性有害性（吸入）、有害性情報 - 急性有害性（皮膚）、有害性情報 - 急性有害性（飲み込んだ場合）、応急措置 - 医師に対する特別な注意事項、有害性情報 - 慢性有害性、危険有害性の要約 - 分類、ばく露防止及び保護措置 - 工学的管理、火災時の措置 - 消火方法（消火剤）、火災時の措置 - 消火方法（火災/爆発の危険）、火災時の措置 - 消火方法（消防）、応急措置 - 急救（吞）、取扱い及び保管上の注意 - 取り扱い、組成および成分情報 - 成分、ばく露防止及び保護措置 - 個人用保護具（その他）、漏出時の措置 - 漏出（大規模）、漏出時の措置 - 漏出（小規模）、取扱い及び保管上の注意 - 保管（混触危険性）、取扱い及び保管上の注意 - 保管（適切な容器）、有害性情報 - 毒性・刺激性（その他）、輸送上の注意 - 輸送、化学品及び会社情報 - 用途

他の情報

SDS（安全データシート）は危険性の伝達ツールであり、リスク評価の支援に使用されるべきです。報告された危険性が職場または他の環境でのリスクであるかどうかは多くの要因によって決まります。リスクは露出シナリオを参照して決定されることがあります。使用スケール、使用頻度、および現行または利用可能な技術的制御が考慮される必要があります。

定義および略語

- ▶ PC-TWA: 時間加重平均許容濃度
 - ▶ PC-STEL: 短時間ばく露限界許容濃度
 - ▶ IARC: 国際がん研究機関
 - ▶ ACGIH: 米国産業衛生専門家会議
 - ▶ STEL: 短時間ばく露限界値
 - ▶ TEEL: 一時的緊急ばく露限度
 - ▶ IDLH: 脱出限界濃度
 - ▶ ES: ばく露基準
 - ▶ OSF: 臭気安全係数
 - ▶ NOAEL :無毒性量
 - ▶ LOAEL: 最小毒性量
 - ▶ TLV: 許容濃度
 - ▶ LOD: 検出限界値
 - ▶ OTV: 臭気検知閾値
 - ▶ BCF: 生物濃縮係数
 - ▶ BEI: 生物学的ばく露指標
 - ▶ DNEL: 導出された無効レベル
 - ▶ PNEC: 予測される無効濃度
 - ▶ MARPOL: 船舶からの汚染防止のための国際条約
 - ▶ IMSBC: 国際海上固体バラ貨物コード
 - ▶ IGC: 国際ガス運搬船コード
 - ▶ IBC: 国際バルク化学品コード
- ▶ AIIC: オーストラリア工業化学品インベントリ
 - ▶ DSL: 国内物質リスト
 - ▶ NDSL: 非国内物質リスト
 - ▶ IECSC: 中国現有化学物質名録
 - ▶ EINECS: 欧州既存商業化学物質インベントリ
 - ▶ ELINCS: 欧州届出化学物質リスト
 - ▶ NLP: もはやポリマーとみなされない物質のリスト

ゴルフスタ

- ▶ ENCS: E既存化学物質 / 新規公示化学物質
- ▶ KECI: 韓国既存化学物質目録
- ▶ NZIoC: ニュージーランド化学物質インベントリ
- ▶ PICCS: フィリピン化学品および化学物質インベントリ
- ▶ TSCA: 有害物質規制法
- ▶ TCSI: 台湾既存化学物質インベントリ
- ▶ INSQ: 国家化学物質インベントリー
- ▶ NCI: 国家化学品インベントリ
- ▶ FBEPH: ロシア 潜在的に有害性のある化学物質及び生物学的物質リスト

ChemwatchのAuthorITeで作成しました。